

松本大学と地域をつなぐ情報誌

ゆめ通信

Vol.15
2010.3.12 (Fri)

キャンパスにネットが出会った

「トキメキ」ネットとまじりながら

まちのおタカラ探しワークショップ
キャンドルに託した松本の未来

まちの縁側楽会開催！



松本大学

“ゆめ”の由来・・・結芽ゆめ「ニーズの芽を結ぶ場所」+夢+遊眼ゆめ「遊び心の視点を持つ眼」
地域づくり考房『ゆめ』は、大学で学んだ知識や技術を学生が地域づくりの中で実践的に生かしていくことを目指しています。

特集

キャンドルナイトで出会った ヒト・モノ・コト ～それから～

12月18日、カタクラモール内の『ゆめひろば』にて、エコを目的としたクリスマス企画『キャンドルナイト』を行いました。色とりどりのキャンドルを囲んで、静かな心暖まる夜を過ごしました。



チャーリーさん制作の
ふくろちゃん絵本の朗読

松本の未来を描いた
紙袋をキャンドルで灯して



松本ろう学校の生徒さん達が作った
ケーキでお茶会



あったかココアを配布。冷え
切った身体を暖めてくれました

室内にはこんな素敵な
西牧さんのキャンドルも
並べて



ギターで静かな
弾き語り



様々な催しがありました。参加した皆さんは楽しんで頂けたでしょうか？

今回のイベントは考房『ゆめ』の学生スタッフが企画から準備、当日の運営まで全て行いました。イベントを運営するのはとても大変でしたが、たくさんの方の協力を得て、多くの方の素敵な笑顔を見ることができました。未熟な面もありましたが学生スタッフにとっては充実した、人と人とが繋がるとも大切なイベントになりました。

今回のイベントでの経験を活かし、地域の様々な方々と交流できる企画を運営していこうと思います。ご協力よろしくお願いします。そして、お楽しみに。

今回のキャンドルナイトには、これまでの松本大学学生と地域との連携活動の中で出会った多くの方々に参画ご協力していただきました。



「なわて通りかえる祭り」で出会った絵本作家のチャーリーさん

Charles Ward チャールズ・ワードさんはイギリス出身。
日本には5年間住んでいます。
創作絵本「ふくろちゃん」の作者です。



Q.キャンドルナイトはいかがでしたか？

A.とても楽しかったです。特に西牧さんのキャンドルで「大豆でできたキャンドル」があり、素晴らしいと思いました。石油でできたキャンドルと違ってツンとする様な臭いがなく、優しい香りがしました。

Q.どうして日本に来たのですか？

A.日本の憲法第9条で「戦争をしない」というのに共感しました。日本は安全な国というイメージがありましたが、実際にはイメージと違う部分もあります。でも、とても良い国だと思います。

Q.「ふくろちゃん」はどのようにして生まれたのですか？

A.エコ活動は日本に来てから始めました。日本の生活の中でプラスチックの量がとても多いことに気がきました。少しの買い物でもプラ、レジ袋などが使われます。このことから元々デザインやパソコンの活動をしていたこともあり、2008年3月に「ふくろちゃん」が生まれました。

周りの人たちからも『ふくろちゃん』は人気があり、好反応でした。みんな応援してくれたので、続けようと思いました。

Q.これからの活動は？

A.現在の活動の中で「ふくろちゃん」の絵本を一冊買ってもらうと1本の木を植えるという活動があり、2009年は2ヶ月間で500本の木を植えることができました。2010年はその100倍の5万本の木を植えることが目標です。他にも、「ふくろちゃんの会」を立ち上げ、「ふくろちゃん」を強化していくこと。絵本の続刊、チラシを減らす活動、4月29日のアースデー、松本ぼんぼんへの参加、タウン情報誌に掲載している「ふくろちゃん」の4コマ漫画も継続していきたいです。



「Sign」と交流している松本ろう学校高等部専攻科デザイン工学科生活環境コースの皆さん(生徒と先生方)

松本ろう学校では、地元の食材を使って様々なスイーツの商品を開発しています。今回はキャンドルナイトにケーキを提供していただきました。

Q.キャンドルナイトはいかがでしたか？

A.とても楽しめました。考房『ゆめ』のメンバーの皆さんや学生スタッフさんと交流ができてよかったです。キャンドルはとてもキレイでリラックスできました。時間の都合があり、自分たちが作ったケーキが食べられなかったのですが、またキャンドルナイトに参加したいと思います。
(専攻科 五明健太さん)

Q.どうして信州産の食材を使ってお菓子を作っているのですか？

A.信州らしいバターケーキ『みそバターケーキ』を講師の先生から教えて頂いたのがきっかけです。そこから「他にも『信州らしい』お菓子を作れないだろうか」ということで、生徒が「わさび」「長芋」「野沢菜」のお菓子を考え、開発に取り組むことになりました。(担当教員 柳澤奈津美先生)

Q.周りの人の反応はいかがでしたか？

A.今までケーキ販売や喫茶などをやってきました。なかなか好評で、「もっとケーキを販売してほしい」「喫茶の時間をもっと増やしてほしい」などの意見をいただきました。

Q.これからの活動は？

A.考房『ゆめ』のメンバーの皆さんとケーキを作ったり、お店で販売などをしてみたいです。また、信州産の名物を使用して、新たなお菓子やケーキ開発にも挑戦したいと思っています。



キャンドル作家の



みち



昨年のゆめひろばクリスマス会で室内を飾った美しいキャンドル。心温まる癒しの時間になったことと思います。今回はそのキャンドルの生みの親、西牧隆行さんと、親交の深い西田美佐先生と、ゆめひろば運営サポーターの立石恵子さんと、ゆめ通信編集委員(市村一裕)の4人が対談を行いました。キャンドルを作ったきっかけを始め、彼の人生観や苦悩、そしてこれからの『ゆめ』を聞いてみました！

日常生活に溶け込む癒し「lifart...」

市村 クリスマス会の際は、ありがとうございました。新聞記事にも載りましたが、地域の評判はいかがでしたか？

西牧 いろんな方から良い反響がありました。特にスタイリストの伊藤まさ子さんが、僕のアロマキャンドルを新聞記事にしてくれて、それがワークショップ(※)の直前の頃だったので、さらに反響が増えました。

※キャンドルワークショップ・・・2月4日に行われた松本大学ゆめひろば共同企画ワークショップ。300円の材料費で、西牧さんの講師のもと、オリジナルキャンドルを作ることができた。

市村 ワークショップはかなり人気でしたね。地域住民にワークショップを開くなどのビジョンは以前からありましたか？

西牧 やってみたいという思いはありました。教えて欲しいという声はよくいただきましたが、なかなか実行に移せずにいて。今回タイミングよく大学からお話をいただいて良い機会だったので開いてみました。お陰様で低価格で提供できました。隣近所の方からも良い感想を聞きました。

立石 西牧さんの家って、玄関にキャンドルを飾ってるの？

西牧 僕の家は昔お菓子屋でして、そのお店の跡を工房にしています。そこにはキャンドルが沢山飾ってありますよ。

市村 キャンドル工房「lifart...」の名前の由来は何ですか？

西牧 lifartという英語はLifeとartを掛け合わせた造語なんです。キャンドルって、日常生活の中で使うものですよ。そういった楽しみを外部から受け取るのではなく、自分から癒しを創出する気持ちが大事だと思うんです。例えば、映画や美術館に行くことは、日常とは一線を画したリラクスの時間ですよ。その境目をなくした時間を生活の中に持っていけたら良いと思うんです。芸術に触れる時の「楽しむ気持ち」を大事にしてほしいんです。そういう思いで「lifart」にしました。

西田 キャンドルは西牧さんが作ってくれるけど、それをどんな場面でどう使うのかは、その人次第なんですよ。

西牧 楽しむっていうのは、与えたいとか与えられるものではないんです。受け取りたい人が受け取りに来たり、自分からつくりだしたりできれば良いと思っています。

市村 特定の人々の為に作るのではなく、知らない人に作るのには夢がありますね。lifart...の点は何を意味しているのですか？

西牧 生活って明日明後日、これからも続くじゃないですか。これからも続けて意味で点をつけました。

キャンドルに思いを込めて・・・

市村 ところで西牧さん、キャンドルはどこで販売されているのでしょうか？

西牧 松本市内の洋服屋さんを主に古着屋ピンクさんや、穂高駅前のカフェひつじ屋さんで販売しています。

市村 なるほど。衣服や喫茶店など、キャンドル専門店ではなくいろんな店で販売しているんですね。キャンドルを販売するまでに何か苦悩したことはありますか？

西牧 特にないですね。ただ、販売しているうちに、別に仕事もしているので仕事と販売のパワーバランスが難しかったです。自分にとってキャンドルってどんな存在か分からなくなって、1、2ヶ月くらい何も作らなかった時もありましたね。でも不意に作りたくなって、また悩んで…そんな波の繰り返しです。自分が作ることに何か意味があるのか、自分らしいモノって何だろうって探して悩んだ時期もあります。



**■西牧隆行**

キャンドル作家
2008年にキャンドル制作を開始し、工房「lifart...」を設立。松本を中心に活動している。

**■西田美佐**

健康栄養学科教授
栄養学を中心に幅広い研究をしている。子どもの食育について実践的研究もしている。

**■立石恵子**

フリマネット信州運営代表
フリーマーケットの形を考え、精力的に活動。考房『ゆめ』サポーターとしても活動中。

**■市村一裕**

松本大学総合経営学部4年考房『ゆめ』学生スタッフとして活動。2008年は、新村福祉システムネットワークで活動。

西田 西牧さんは生活の糧にしていけない分、自由に創作ができると思います。でも忙しいと思うので、大変ですよ。

西牧 そうですね。新しいことを始めようと思っても、忙しいので既存のものを作るだけになってしまいます。新しいアイデアはあるんですけども、作品か商品かで葛藤することがありますね。今は、特に囚われずに制作するようにしています。

西田 でも、セージの香りがいいのかと店で聞いたら、次に行った時にはあったのが、すごく嬉しかったです。

西牧 お客様の反応や私の思いが、販売している店の方を通じて伝わるので、すごく活動しやすいです。

立石 大量生産の現場だと、製造者から小売店に行くまでの間は知る由もないんですよね。だから、ただ「物」が動いていると錯覚しやすいんです。本来、物でなく「思い」や「気持ち」が形になったものが動いているんですよ。西牧さんがキャンドル専門店ではなく、全く関係ない店舗で商品販売していると言っていたが、それはまさしく人と人の繋がりに生まれていると思うんです。

市村 松本のような地域だからこそ人との繋がりが深いんですよね。

キャンドルへの道、自分探しの選択

市村 キャンドル作りをするきっかけって何ですか？

西牧 実はないんです(笑)キャンドルは特別好きってわけでもなかったんですよ。東京に行ってファッション関係の学校に行きながら7年間暮らしていました。でも、その中で何か物を作りたいって思いはずっとありましたね。キャンドルか万華鏡かスノードームの3つに興味があって、その中で自分に向いていたのがキャンドルでした。今は服飾関係の会社の正社員として働きながら、キャンドルを作っています。

西田 以前西牧さんから「就職するよりも、自分を確立することに興味があった」って伺ったんです。今の学生は、自分が何をしたいかどう生きたいかを考える前に、就職しなくちゃって思いがある気がします。その中で自分らしさというものが分からなくなってくる。西牧さんは、どうして就活やろうって思うよりも、自分が何をやりたいかを先に考えられたのですか？

西牧 就職しなければというのは最初から思いませんでしたね。一つの選択肢としてはありました。選択肢の一つでしかないんですけど、学校の教員はそのカードしか見せてくれない気がします。

西田 学校の教員は、就職させてあげなくちゃって思うことや、学生を集めるのに資格試験の合格率や就職率が一つの指標になってしまっているということもあります。大学の3年生は、もう就活してる。実は私自身、就活したことないんです。

立石 私もです(笑)

西牧 大学行くために勉強しなさい、就職するために大学行きなさいって、一枚ずつしかカードを見せられてない中で、若い人達はそれを信じて進むんですけど、どこかで必ず行き詰まる時ってあると思うんですよね。

西田 自分以外の人の評価に合わせることで、自分らしさを閉じ込めてしまいますよね。

西牧 自分の価値観で生きればいいんです。他人からこうしなさいって言われても自分の信じたことをしていくと良いと思います。他の選択肢があることを想像するヒントって沢山あるんです。

立石 今の大人って、悩むことがいけないって言いますよね。なるべく障害にあわずに順風に進むことが正しくて、悩みが多かったりつまずいたりすることは間違っているという偏った考えなんですよ。

西牧 学校は生徒の想像力を止めているかもしれませんね。言っていることが全てじゃないってことを想像することも大切ですよ。

市村 キャンドルに置き換えると、今までキャンドルってこういう物なんだと意識して見ていましたが、自由な発想を形に出来るって聞いて、思っていたものと全然違っていましたね。最後に将来の夢とかがあってありますか？

西牧 先々何年後何をしたいっていうのは特にはないです。やりたいことと出来ることって違うんですよね。「やりたいこと」を「出来ること」に近づけていきながら今をやりたいです。日常に密着した活動が出来たらいいですね。

市村 なるほど。良い勉強になりました。今日の話は自分自身を省みる良いきっかけにもなりました。短い時間ではありますが、対談をしていただいてありがとうございました！



キャンドルに託した 松本の未来

12月6日(日)に松本市カタクラモール周辺でまちづくりワークショップ『松本の未来を描こう』を開催しました！！
チームごとでまち歩きワークショップやまちづくりワークショップを行い、地域の方と学生が一緒に地域のことを考えました。
そして、ワークショップの最後では参加者全員で、クリスマスイベントでキャンドルを入れて灯す紙袋に、松本の未来を描きました！！
今回は、このワークショップの詳しい内容と、それにただ参加しただけで終わらせずに、学生がワークショップをきっかけに、企画し、実際に行う活動を紹介します！！

★まちづくりワークショップ『松本の未来を描こう』★

【まち歩きワークショップ】

チームごとに分かれて、地域の「いいところ(ヒト・モノ・コト)」「困ったこと」を発見し、地図に落としていきました。また、チーム内で役割分担し、カメラで撮影したり、ポイントをメモしていきました。その他に、地域の方にインタビューもさせていただきました。



【まちづくりワークショップ】

まち歩きワークショップで「みつけたおタカラを活かして、私たちが出来ること！」をテーマに、チームごと模造紙にまとめました。1チーム2分という短い発表時間にも関わらず、各チーム工夫を凝らしたまとめ方をし、わかりやすい発表となりました。



【松本の未来を描こう！】

ワークショップ終了後、参加者全員で「松本の未来」をテーマに紙袋にメッセージを描きました。絵を描いた人・文章を書いた人など個性あふれるものばかりでした。また、何枚も持って帰り、他の人にも描いていただき、後日届けてくださった方もいました。



員で「松本の未来」をテーマに紙袋にメッセージを描き人など個性あふれるものばかりでした。また、何枚も持って

★学生がワークショップに参加したことをきっかけに始まった活動紹介★

ワークショップを終えて、学生がコミュニティーリーダーという講義で「私たちができること」をより具体的に考え、まとめました。その中から、実際に「やってみたい」活動を選択し、チームに分かれて企画づくりを行いました。その際に、作成したデザインシートを元に活動を紹介します！！



【2010年春 寄せ植え交流会】

この活動は、南安曇農業高校GS科フラワーコースの学生と一しょに本学生2名が企画しています。安曇野市豊科成相地区の方々へ寄せ植えを通して交流する活動です。

■テーマ 『花でつながる地域の輪』

■具体的な活動目標・内容 地域の若者と大人たちの交流や共通の話題づくりに花の力を借り、異なる世代の人が触れ合うことで、お互いに新たな発見ができるようになりたい。広い視野を持つためのコミュニティーづくりのきっかけをつくりたい。

■開催日 平成22年5月16日(日) ■場所 成相コミュニティーセンター

■対象者 安曇野市豊科成相地区の方々(25名ほど) ■参加費 1500円

■内容 第一部 寄せ植え作業 第二部 茶話会 など

■花の種類 アスター、アリッサムなど

※4月に申込用紙の付いたチラシを成相地区に配布予定です。



【石井味噌を知ってもらおう】

この活動は、まち歩きワークショップなどでお話を聞いたり、蔵を見せていただいたときに、石井味噌さんは松本のおタカラだと感じ、もっと地元の人に知ってほしいと考えたことをきっかけに始まりました。

■テーマ 『石井味噌訪問』

■具体的な活動目標・内容 信州産の原材料を使って手作りで健康にもよい味噌を作っている石井味噌さんを、地域の人に知ってもらおう。直接石井味噌さんに行き話を聞いて感じたこと、気づいたことを元に、チラシを作成。カタクラモールゆめひろばなどにチラシを置き、多くの人に地元の味を味わっていただく。

■配布開始日 3月上旬 ■配布予定物 石井味噌さんからいただいたパンフレット・学生作成のチラシ

■配布対象者 カタクラモールに来る買い物客など一般の方



【すすき川お掃除し隊】

この活動は、まち歩きワークショップで薄川周辺を歩き、松本のおタカラである薄川のごみ拾いを通して地域の人たちと交流しようと考え始まりました。

■キーワード 自然の中で老若男女よ 集え！

■具体的な活動目標 薄川周辺の清掃活動を通じて地域の人たちと交流し、私たちが住んでいる町をきれいにしつつみんなで協力合うことの大切さを知る。

■開催日 平成22年3月6日(土) 9:00～

■内容 薄川(源池小学校南)のごみ拾い・地域づくりワークショップ・地域の人々と交流を交えたお茶会



【私たちが見つけたお宝MAP】

この活動は、まち歩きワークショップで見つけたお宝を整理してMAPにまとめパンフレットとして配布する活動です。

■具体的な活動目標・内容 松本の歴史・文化・自然・観光資源をいろいろな人に知ってもらおう。パンフレットを見てもらい、松本の良い所を地元の人に再確認してもらおう。また、観光客のガイドマップとして活用してもらおう。

■MAPの範囲 カタクラモール周辺 ■3月中旬完成予定

■配布対象者 松本の人・観光客



【昭和あそび探検隊】

この活動は、松本のタカラである「あがたの森」で小学校低学年生に隊員となってもらい宝探しなどをして「昔のあそび」を行う活動です。

■具体的な活動目標 歴史を伝えたり、文化を大切にすることを高める。また子どもたちに外で遊ぶことの楽しさを促すきっかけにしたい。

■場所 あがたの森文化会館周辺

■日時 平成22年5月2日(日)※予備日5月3日(月)

■対象者 小学校1年生から3年生まで(親同伴) ■内容 宝探し・探検・報告会

■申し込み先 松本大学地域づくり考房『ゆめ』 TEL 0263-48-7213 (締め切り 4月20日)



【切り開こう！新村の未来を☆】

この活動は、まち歩きワークショップで私たちができることを考えたように、新村の困ったことを知り、その改善策を考え、地域の方に意識して生活してもらえるように促す活動です。

■キーワード 意識改革

■具体的な活動目標・内容 新村の困ったところを探し、自分達で改善策を考え、住民に意識してもらう。新村公民館の「ひろば喫茶」に来た人々にインタビューしました。改善策は回覧板でまわします。

■インタビュー日時 平成22年2月1日(月)

■インタビュー内容 「新村に住んでいて困ったことはありますか？」

■回覧板でチラシ配布日時 平成22年2月5日(金)

まちの縁側楽会開催！

第1回

日時: 3月20日(土)
12:30~17:00
会場: 松本大学 6号館



★参加団体★

[名古屋市] 錦二丁目まちの会所 / まちの縁側 MOMO [天龍村] 天龍村柚餅子生産者組合 [伊那市] 上伊那子どもサポートセンター [辰野町] NPO法人辰野自立生活支援の会あかり / オーリアッド [塩尻市] さくらフェスタ盛り上げ隊 / 中心市街地活性化・「和みの道」プロジェクト / チーム青い空 / 塩尻プレーパーク / れんげ草 [松本市] みすず屋 / 古い電車で新しい語らいの会 / 楽蔵びあの催事カウンセシル / 松本大学地域づくり考房『ゆめ』 / 松本大学子どもあそび隊 / Sign / 難聴児支援〜33(ミミ)がわりプロジェクト / ほっとウイング / フリマネット 信州 [長野市] 信里新聞をつくる会 / 西三才よりあい広場ボランティアの会 / 松代縁側プロジェクト / まちの縁側おより家 / いわの風・えんがわ音楽校 / まちの縁側推進プロジェクト / NPO法人心の休憩所アトリエ虹 [須坂市] 寺子塾

“まちの縁側”ってなあに？

「人に関わるヒト」「魅力あるモノ」「人を引き寄せるコト」居心地の良い場所を創出する「ヒト、モノ、コト」の総称です。
そこには、暖かな空間があり、誰でも参加でき、生き活きと人生を創出する、ゆったり過ごせる、ホッとできる居場所です。

どなたでも
お気軽にご
参加下さい。

Event Program

- ◎12:40~ げんと一く 生き活きとした人生を創出する“まちの縁側”〜ヒト・モノ・コトの縁が輪を紡ぐ〜
講師: 延藤 安弘氏 (愛知産業大学大学院教授、NPO法人まちの縁側育み隊代表理事)
- ◎13:20~ 活動発表会 各活動アピールポイント紹介
〜大事にしていること、うりにしていること、特徴、秘訣〜
ファシリテーター: 内山 二郎氏 コメントーター: 延藤 安弘氏
- ◎15:20~ 活動情報交換会 きらりと光るモノを見つけよう!
- ◎15:50~ 選考会 こんなエンガワがいいで賞
審査員: 参加者全員 (参加全チームに賞状と賞品を進呈)



【主催】 名古屋〜松本〜長野沿線
まちの縁側楽会実行委員会
松本大学地域づくり考房『ゆめ』



★*・☆*・° つぶやき ☆*・° ★*:

昨年の4月からゆめ通信編集スタッフになり、早1年が経とうとしています。最初は取材から始まり、今では自分自身の手で記事を仕上げられるようになりました。また、学生スタッフとして多くのイベントを手掛けました。皆と繋がりが出来たことが最高に嬉しかったです。考房『ゆめ』ではいろんな方と出会い、別れ、人間としても成長が出来たと思います。今年の春から、社会人としてまた一歩前進します。『ゆめ』で培ったことを糧にして、人との繋がりを大切にしながら、自分の夢を忘れずに頑張っていきたいです。
(観光ホスピタリティ学科4年 市村 一裕)

お問い合わせ、ご意見、ご質問、ご感想等
ありましたら下記へご連絡下さい。



松本大学 地域づくり考房『ゆめ』

〒390-1295 長野県松本市新村 2095-1

Tel: 0263-48-7213(直通)

Fax: 0263-48-7216(直通)

E-mail: community@matsu.ac.jp

URL: http://www.matsumoto-u.ac.jp/matsumoto_u/yume/